

## 児童の疲れの増加や学力格差の拡大がみられる

移行措置期間も含めた児童の変化をたずねたところ、教員は、思考力・判断力・表現力等にかかわる児童の変化として、「分かりやすく伝えたり、説明できる児童」「感じたことを表現できる児童」の増加を感じているが、3割弱にとどまる。「疲れている児童」「授業についていけない児童」の増加や「児童間の学力格差」の拡大は2～4割の教員が感じている。

Q

新学習指導要領の実施（移行措置期間も含む）によって、児童はどのように変わってきていると思いますか。

図5-1 児童の変化①(思考力・判断力・表現力等の育成にかかわる学習)

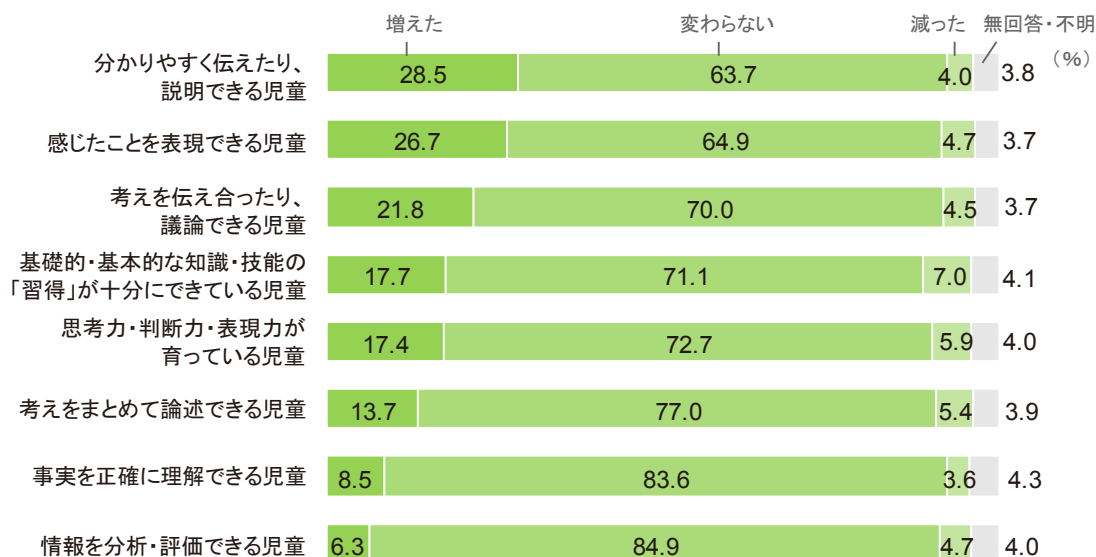


図5-2 児童の変化②(疲れ、授業理解、学習意欲、学力格差など)

